



和光の緑と湧き水だより 会報 Verda 224号

NPO 法人 和光・緑と湧き水の会は、白子大坂ふれあいの森の会と協同で会報を発行します。 作成:高橋絹世 連絡先 048—462—9912

身近な自然を知り守り伝えよう 会員募集中

ホームページ

<http://wako-wakimizu.org/>



2023年6月～2023年7月の主な予定表 (2023年6月発行)

予定	全体会	新倉ふれあいの森	富澤湧水・大坂ふれあいの森
6月	湧き水環境フォーラム in 和光の準備	17日 定期保全 27日 北原小3年生 ふれあいの森自然観察	10日 富澤フィールドワークとフォーラム打ち合わせ 21日 大坂ふれあいの森保全活動
7月	富澤のフィールドワークの日程で第1回緑のパートナー研修会を実施	15日 定期保全 棚リゾン様参加 活動後マジックショー があります	8日 富澤フィールドワークと 第1回みどりのパートナー研修会 19日 大坂ふれあいの森保全活動

1. 2023年度 第16回総会を6月3日 13時より白子コミセンで開催
前日の6月2日から激しい雨、3日未明には線状降水帯が発生とのニュースがあり、大雨が当日10時ごろまで続きました。その後収まり、総会を白子コミセンで開催することが出来ました。公園みどり課から課長高橋様、課長補佐佐々木様がご臨席下さり、会員22名の出席があり盛況の総会となりました。当会は、定期活動として新倉、富澤、大坂それぞれ地域の活動で、今回のように一堂に会することが少なく、総会が重要です。今年新入会者もあり、NPO 法人として今年も元気に、楽しく、健康に活動を継続できそうです。2022年度の「湧き水テレポートカード」の発行を皮切りに、今年度「富澤湧水看板設置」、紙芝居・絵本「ぼくの夢は湧き水になること」といった新しい提案やアイデアが承認され、今後も増えることを期待しています。



公園みどり課課長高橋氏



高橋課長より
ご挨拶をいただき、さらに和光 新市議会議員富澤氏のお話し
市議会議員となられた富澤啓二様から「大坂ふれあいの森の公有地化」について伺いました。和光の湧き水保全の動きが力強く始動しました。当総会の議長を堀文雄氏にお願いし議事が進められ、質疑が行われすべての議案が承認されました。終了後集合写真

2. 富澤湧水を案内する看板を設置しました

富澤湧水の美しい湧き水を多くの人に知ってもらうために、看板を作りました。結果、通りを行き来する人を見ていると、看板の案内を見て湧き水を確認している人達がいることがわかりました。

看板を作るようになった経緯は、湧水の魅力が現在の小さな案内だけでは伝わりにくいことから、関心のあるメンバーで話し合ったところ、重要文化財のような雰囲気を出す看板を設置することで、貴重な自然がそこにあることを発信できるのではと考えました。

また、今までは駐車場に目的不明の人がうろうろする状態があり、車の利用者に不安を与えていました。看板設置により付近に集まる人の目的を明確にすることができ、トラブルを減らす効果も期待しています。

設置個所やデザイン案を数種類検討し、富澤医院の院長に度々確認しながら具体的な看板企画を完成させました。富澤湧水の説明文は近年流行りの AI プログラムの「chatgpt」を活用しました。並行してサイサン基金の応募および柳下技研株式会社様からのご寄付で施工費用を捻出する計画を進め、可能な限り安価で丈夫でセンスの良い看板が作成できる業者を探しました。

5月30日に午前中から工事を始め、午後1時頃には完成しました。

今後、看板設置により駐車場が安全になり、富澤湧水の保全を願う人が増えることを期待して、活動を継続したいと思います。

ここに生息する生き物は大変貴重なため、みんなで大切に守っていきましょう。



3. 白子大坂ふれあいの森の会 総会 2023 年 5 月 17 日

大坂ふれあいの森の定期活動日 2023 年 5 月 17 日 天候に恵まれ、公園みどり課の清水様、山口様のご参加をいただき、白子大坂ふれあいの森の会の総会が開催されました。

大坂ふれあいの森は、大きなイヌシデやムクノキが枝を広げ、青空のもと木の枝のパッチワークが広がり澄んだ空気の中で、事前に配布された書類にそって総会が進められました。

また、大坂ふれあいの森は今年度公有地化が実現します。周囲に家は建ちましたが、ようやく湧水地として大坂ふれあいの森が永久に残される良い知らせでした。湧水地であり、カタクリ、イチリンソウなどかつての武蔵野台地末端部の特徴を残した斜面林です。会でもずいぶん前から保全活動をし、継続して生物多様性を保ってきました。家が出来たことで、暗くなりますが、西側の笹や樹木の枝を選定し広く開ければ日差しも入り、イチリンソウ群落も保てます。中間地の木が成長し暗くなってきているため、日照が得られるよう樹木の間引きが必要と思われます。

急斜面の崖地は、ムクノキとシュロががんばって斜面を支えています。ムクの大木の奥に若いムクノキがあり、これも急斜面を支えている大切な樹木です。ここで大坂ふれあいの森を支えているといっても良いでしょう。ムクノキの存在は、泥質の急斜面が適しています。大坂



ふれあいの森の支えは、このムクノキの大木、それを支える若いムクノキとシュロの根です。来年度急斜面に保護用の素材を打ち込む予定とのことです。樹木の根に損傷がないよう細心の注意が必要と思います。

4. 「オニヤンマづくり」大盛況：つつじ祭り・和コラボまつりで工作コーナー

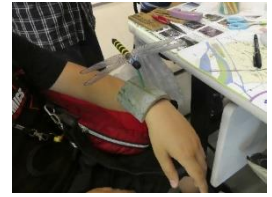


4月29日の祝日に熊野神社境内でつつじ祭りが久しぶりに開催されました。当会のテントでは、杉浦氏の指導のもと、「オニヤンマづくり」を開催したところ、多くの親子連れが申し込み、待ち時間が3~40分。幼稚園児から小学高学年の子供達

が、杉浦さんの優しい教え方で、落ち着いて最後まで根気よく、立派な作品を作っていました。和コラボまつりが5月28



日に開かれましたが、緑のパートナー発表会が中止となり、会場が開いてしまいました。そこで湧き水の会が当会場を活用して「オニヤンマづくり」、「湧き水レポートカード紹介コーナー」を開催しました。ここでも室内にもかかわらず、2つのコーナーは大変人気がありました。オニヤンマが出来上がってみると、大きく置物としても存在感がある素晴らしいものです。これがあると「カ」がやってこないとの効果があります。



会としてもこの工作に関して、材料、準備、作り方など今から杉浦氏に教わり、作り方を習得しておく必要があると思いました。

5. 「富澤湧水地」がJCOMのつながるニュースで詳しく放映されました。

5月16日 事前に連絡があったJCOMの取材の日です。落ち着かず心配していた日がやってきました。普段から慣れ親しんだ富澤湧水の前で、午前中に取材され、今回は富澤湧水の地質の特徴、水辺の生き物、活動を始め、継続してきた経緯など幅広い質問がありました。夕方6時にはJCOMおよび「どろーかる」で「つながるニュース」、15分という長い番組で放映されました。



富澤湧水の緑が茂り、生き物の気配など季節感あふれ、水辺の涼しげな映像が流れました。

6. 「湧き水環境フォーラム in 和光」開催に向けてチラシを印刷し配布できるようすすめます

今年は、大坂ふれあいの森が公有地になる記念の年、白子宿特別緑地保全地区も看板が出来上がり、和光の湧き水保全が進みます。これを機に、和光の湧き水を広く知ってもらいましょう。総会でも皆さんにチラシを配布しましたが新たに印刷し、多方面への配布に皆様のご協力をお願いいたします。

ともに守り残していこう！ 白子湧水群の豊かな自然環境と地域の歴史

湧き水環境フォーラム in 和光

知っていますか？ 都市部に残された貴重な和光の湧き水とその環境

令和5年10月15日（日） 13:00～16:30

第1部 13:00～14:00（現地観察会）
第2部 14:20～16:30（フォーラム）
集合場所 白子コミュニティセンター

皆さんご存じですか？ 和光は「湧き水の里」とも言われている所です。鎌倉区や板橋区に隣接した街中に、川越街道白子宿として、湧き水を利用していた跡も残っています。歴史と自然の交差点和光市白子の「白子湧水群」で、フォーラムを開催します。中心の「富沢湧水」はいつでも水路がめぐり、「大坂ふれあいの森」は、公有地化され都庁の中のアナシスとなっています。歴史と自然を見て、聞いて、皆さんとご一緒に残していこうと思います。

7. 今年度の地域定期保全活動について

緑の基本計画が新しく作られ、その方針に沿って、湧き水の会は「みどりのパートナー」の一団体となりました。みどりのパートナーの各会員向けに、公園みどり課が研修会を企画し、先ず当会がサポートして、予定された研修が市内3か所で行われることとなりました。

○富澤湧水：7月8日 定期保全活動およびアロマプログラム（火気使用は熊野神社）

○大坂ふれあいの森：9月20日 定期活動及び草木染プログラム（火気使用は熊野神社）

○新倉ふれあいの森：11月18日 定期活動及びアウトドアプログラム

：2024年1月20日 定期活動とイベントのプログラム作成

○新倉ふれあいの森：2024年3月16日 定期活動と実践

保全活動との両立が必要と思います。これからの活動にどのように生かされるか、まずは「トライ」しましょう。